

令和7年度

徳島市昭和小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体に向けた取組の一層の推進
- ICTを活用した指導の向上

校長

坂東 明典

学力向上推進員

校長:坂東 明典 教頭:濱田 実
 6学年:八島 美穂 5学年:児島 悦子
 4学年:福井 啓史 3学年:湯口 皓平
 2学年:宮本 真理子 1学年:岸本 由加

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組の状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ドリル学習や音読練習に取り組む習慣が身に付き、基礎的・基本的な知識・技能が定着している児童は多い。 ●知識・技能の定着に二極化傾向がみられる。一人一人に応じた支援に課題がある。	・学習課題に確実に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用することができる。 ・話し方・聞き方のスキルを身に付ける。 ・一人一台端末を効果的に活用し、学びに生かしたり、確かな情報モラルに基づいた情報活用能力を身に付けたりする。	・板書やワークシートを工夫し、問題解決の流れにそって学習が深まるように指導する。また、反復練習に取り組む実践内容を学年間で共有する。 ・授業中の発言や質問の仕方等を学年に応じて段階的に指導していく。 ・ICT支援員と連携しながら、一人一台端末を目的に応じて取り入れ、一人一人が活用できるようにする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを進んで発表したり、友達の意見を関心をもって聞いたりすることができる児童は多い。 ●相手の意図を捉えながら聞いたり、自分の考えの根拠を明確にして話したりすることはあまりできていない。	・話し手の言いたいことを考えながら聞き、目的や相手に応じて根拠を示しながら、自分の考えを適切に表現することができる。 ・友達と意見を交換することを通して、自分の考えを広げ、深めることができる。	・書く活動を積極的に取り入れ、根拠を明確にししながら自分の考えをまとめる機会を設ける。 ・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ICTを活用して、児童が互いに考えを交流できるように工夫する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習課題に対してまじめに取り組むことができる。読書が好きな児童が多い。 ●与えられた課題には取り組むが、自ら課題を見つけて取り組もうとする児童は少ない。	・学習規律を守り、望ましい学習習慣を身に付ける。 ・進んで学習に取り組む、学ぶ楽しさやわかる・できる喜びを感じることができる。	・「学習習慣チェックシート」を活用し、望ましい学習習慣の定着を図る。 ・児童が主体的に取り組めるような体験や活動を取り入れ、学習後の評価を適宜行う。 ・学習をふりかえる時間を設け、解決した達成感と次への課題意識をもたせるようにする。 ・「家庭学習の手引き」を基に、自主学習の仕方を指導する。 ・読書タイムの確保に努め、定期的な学級文庫の入れ替えなど、読書環境を整えていく。			